

地久節

JJ1SXA/池

「地久節」という言葉の意味の記憶が曖昧で自信が無かったので、ググって見たら、「地久節は、皇后の誕生日を祝う日、『地久』は老子の『天長地久』より採られている、皇后誕生日ともいう」とあった、記憶は曖昧だったが、とりあえずあたりだった。

「天長節(天皇誕生日)と異なり、皇室祭祀令に基づく宮中祭祀や、休日法の定める国民の祝日ではないが、男女別学が主流だった戦前期の女子校などにおいて、天長節に準じた扱いで祝賀の儀式が行われることがあった」ともあった。

1930年(昭和5年)12月23日、大日本連合婦人会が結成されると、皇太后(貞明皇后)の女官長を辞職したばかりの島津ハルが理事に就任した。島津ハルは島津長丸男爵夫人で、香淳皇后の縁者でもあった。同会は、当時の地久節(香淳皇后の誕生日である3月6日)を母の日に定めた。

しかし、母の日は連合軍占領下の日本の1949年(昭和24年)頃からアメリカ合衆国に倣って「5月第2日曜日」に変更されている。

1948年(昭和23年)7月20日に施行された国民の祝日に関する法律が「天長節」ではなく「天皇誕生日」の名称を用いたことを受けて、「地久節」も「皇后誕生日」の名称を用いることが一般的になっている。

ここに、懐かしい響きの「天長節」という言葉を久し振りに見た、我が小学生時代、もとい、国民学校児童の時代、「天長節」は、勿論祝日で休みの筈が、登校した、天皇誕生日のお祝いのためだ、校長の訓辞や君が代斉唱等の一連の行事が終わると、「紅白のお饅頭」が配られ下校だ、戦時中で滅多に口にすることのできなかつたお饅頭は記憶に残る、遠い遠い大昔の話だ、hi

天長節や地久節という言葉は私より、はるか後年に出生した若い人達には、何それ？でしょう、昭和の2桁生まれと言えは少しは若ぶっていられた思い出もあるが、昭和から平成へ、そして令和と3代もの天皇陛下のもとに生き永らえている、人生100年時代ともいわれる現代だが、心身ともに健全で無ければ幕引きをすべしだ。

「天地長久」は老子の言葉だが、「天地は永久に尽きることがな」といったような意味だ、また「天壤無窮」という言葉もある、「天地共に永遠に続くこと」という意味のようだ、「壤」は土地のことで、「天壤」は天と地のこと、「無窮」はきわまりがない、果てがないことという意味のようだ。

この「老子」の他、儒教の祖とされ、弟子が師の言行をまとめた「論語」で有名な「孔子」や、あるいは「孟子」、忘れてはいけない兵法で有名な「孫子」といった偉大な先人を祖先に持つ隣国の現代の指導者や国民には疑問を感ずる点が多々ある、DNAはどこかへ行ったのか？

(2022年12月記)